

病院・薬局実務実習

充実の日々 これまでの自分・これからの自分



本日は病院・薬局実務実習を終えた5年生4名にお話を伺いました。

実習を終えて、今の感想は？

柳川) 薬局での実習で、薬剤師の先生方が学生である僕を、他の薬剤師の方々と同じように扱ってくださったことが印象的でした。もちろん、そのおかげで自分の未熟さを痛感できたことが一番の収穫かな？って今、改めて感じます。

榊沢) ホント。自分に足りないものがいっぱいあるんだって気付かされるよね。私は病院でNST(ニュートリション・サポート・チーム:褥瘡など栄養状態の改善が必要な患者さんに医師・看護師・栄養士などとチーム医療を提供する)にも参加して、もっと薬剤師としての専門性を高めたいなって感じました。いっぱい知識を身に付けて、患者さん一人ひとりに適った処方提案ができるようになりたいって。

小西) 私も病院での実習経験がすごくいい経験でした。実習開始間もないときに、看護師さんから「ある患者さんが口渇を訴えているんだけど……」って相談されて、処方内容について相談されたんだけど、その時抗コリン薬が出されていて、もしかしたらこの薬のせいかな？って思ったから、薬剤師の先生に相談したら、医師に別の薬に変更するように提案しようってことになって……。それから、その患者さんが気になって様子を見ていたら、しばらくしてから「口が渇かなくなったよ」って言われて……。患者さんからも看護師さんからも感謝されて、すごく嬉しかった！

小林) すご〜い！患者さんのQOLの改善に直接貢献できたって、スゴイ経験だね。私の場合は薬局だったけど、飲酒習慣のある患者さんに抗アレルギー薬服用時のアルコール摂取について相談されたんだけど、しっかりと情報提供ができた患者さんに感謝されて……。やっぱり「薬剤師」って職業を目指してきてよかったなって実感できた瞬間でした。

榊沢) そうだね。でも、それだけ責任感のある仕事だったってことも痛感した。自分が調製した抗がん剤が患者さんの身体に届くって、すごく当たり前だけど大学の授業では体験できないリアリティーがあって、このリアリティーがすごく責任の重さにも感じた瞬間だった。

柳川) うん。頭では責任の重大さってわかっていたつもりだけど、実際に医療の現場に出てみると、「今、医療と対峙しているんだ」って空気をひしひしと感じるよね。だから、薬剤師の先生方を見てると「経験」ってすごく大事なんだなって感じた。

小林) そうだね。私がお世話になった施設では、ホント「ミスはありえない」って雰囲気すごかった。もちろん人が行うことだから、ミスすることも時にはあるんだろうけど、他人が経験したミスも自分事のように捉えていて……。いろんな意味で多くのことが情報共有しているのか、代理経験ができていて。日常的に「経験」を高めるための習慣が身についているんだって、自分の日常を反省しちゃう。

小西) いろいろな「気付き」を学んだ実習だったね。「他人の立場に立って物事を考え、行動する。」なんてことも、医療人としては当たり前のことのようにだけど、実習を経験してみてこれまでの自分の言動がすごく薄っぺらいものだったんだなって(笑)

榊沢) 自分を慰めるわけじゃないけど、そう感じることで、「成長できた」ってことだと思うし、まだまだ私たちは薬学生で、これから経験を積んでいく立場なんだから、この気持ちを忘れず、日々頑張っていくことができたら、大丈夫だよ！きつと(笑)

実習での経験は、将来に影響しましたか？

小林) すごく影響しました。病院も薬局も両方経験したいなって。実習前は、薬局への就職を考えていたんだけど、それぞれに「良さ」があるっていうのが、魅力を感じちゃって……。お世話になった薬剤師さんが、「薬の専門家になりたいんだったら、薬局。病態の専門家を目指すんだったら、病院。」って仰ってくださったのがすごく印象的。もちろん、場所が違えば考え方も違うのかもしれないけど、確かに病院では医師と一緒に処方設計に参画できたり、薬物治療を肌で感じる事ができるし、でも採用薬には限りがあるから「もし、違う薬だったら……」って感じたこともあったんです。薬局では、複数の施設の処方箋を扱うから、同じ疾患でも異なる薬が処方されているのを目の当たりにして……。患者さんが、処方箋と一緒に臨床検査値を出してくれることも多くて、「あ、この薬だとこんな感じで治療が進んでいくんだな」って……。まだ学生の私が言うのもおこがましいけど、薬局が薬の専門家を目指すってことが何となくわかったような気がして……。

小西) うん。私も病院と薬局、将来は両方経験したいなって思った。病院でも薬局でも、ホント薬剤師の先生方が素晴らしい方ばかりで……。正直、4年生までは薬学部にいながらも、「将来、薬剤師になるんだ」って気持ちはあいまいだったけど、この実習を通じて「薬剤師への憧れ」がすごく高まった気がします。なんか、稚拙な感想で恥ずかしいんだけど、これが正直な気持ちかな(笑)だから、「もっとしっかり勉強しなきゃ」って心から思いました。

榊沢) 私は、最初から病院に就職しよう！って思っていて、実習を終えた今、それが確信に変わったんだ。病院ではいろんな患者さんの処方に携わらせていただいて、「治療はレジメン通りにはいかないんだな」って感じたことが多くて、もっともっと薬物治療の専門家になりたいって強く感じたの。状況に応じた判断力や幅広い知識。まだまだ身に付けないといけないことが多いってこと再認識させられて、だからもっと頑張らなきゃ！ってね。将来は専門薬剤師を目指したいって本当に思ったし、もっと幅広い分野でも活躍したいって……。

ちょっと矛盾しているかもしれないけど、とにかくいい意味での欲が出てきました。

柳川) みんな実習を通じて、将来を見据え始めたんだね。僕は、改めて就職についてはしっかり考えなきゃって……。自分でいうのも変だけど、病院でも薬局でも、実習生として過大な評価をいただいて……。でも、もっといろんな世界を覗いてみたいって気持ちもあって……。

小西) 柳川くんは要領いいし、勉強もできるもんね(笑)どこでも、やっつけそうだよ。

柳川) そう言ってもらえるのはありがたいけど……。でも、「就職」は間近に迫ったイベントだけど、その前にもっと自分の幅っていうのか、人間力っていうのか、もっと成長しなきゃって思ってる。だから逆に就職については、まだ白紙なんだ。

小林) 自分を成長させたいって気持ち、すごくわかるな。これまで大学だけの生活を続けていて、「自分の立ち位置」っていうのがつかめなかったけど、外に出て実習を経験して、案外自分の身近に自分を成長させることができる環境があるんだなってことにも気付かされたかもしれない。

小西) 私はもっとコミュニケーション力を高めなきゃ。患者さんとも、医療従事者とも、コミュニケーション力が不可欠だってわかってたけど……。振り返ってみれば、大学内でも自分から積極的に新しいことにチャレンジしたり、いろんな人に自分から声かけたりって、あんまりやってこなかった気がする。すぐ身近なところに、自分を成長させるための環境ってあるんだなって……。

榊沢) うん。ホントわかっているけど、行動できないことって多いけど、もっと自分自身に「自信」をもたなきゃいけないよね。もちろん、自信をもつだけの努力や苦労を自分なりに経験しなきゃいけないし、でもそういった過程を経て、自分が本当に経験したことじゃないと、自信って持てない気がするから。

下級生に一言お願いします？

小西) もっと、大学生活を楽しむってことかな？自分自身への反省も含めて(笑)身近な楽しみの中にも、自分自身の成長ってあると思う。ホント、分かち合える友達がいるってことでも、コミュニケーション力が身につくと思うから。

柳川) 実習を経験した「今」だから言えることなんだけど……。もっといろいろな経験を通じて、「自分」を見つめるっていうのが、意思決定力を培うことって大事だと思う。他人に依存するのではなく、「自分で判断する」ってこと。もちろん、責任とか面倒なこといろいろついて回るけど、毎日の中で少しずつでも意思決定できるスキルを身に付けるって大事なことだと思います。

小林) 私は管理能力かな。大学でもポートフォリオやPDCAとか、いろいろ学んでいるけど、「やらされる」のではなく、自ら率先して行うマネジメントスキルを学ぶことをお勧めします。グループにおけるマネジメント、自分自身のマネジメント。私自身がもっと頑張らなきゃいけないことなんなんですよ(笑)

榊沢) 大学の中で座学だけを受けて、知識を身に付けたつもりになっていないで、どんどん外に出て、現場に出て、いろんなことを吸収してください！



小西 久実
東京家政大学附属女子高校出身
(東京都)



小林 恵梨香
金沢高校出身
(神奈川県)



柳川 純一
袖ヶ浦高校出身
(千葉県)



榊沢 恵美
日本大学習志野高校出身
(千葉県)



城西国際大学の6年制薬学教育



「遠くの大病院よりも、近くの頼れる薬剤師に！」

超高齢化と国際化が進む日本社会のこれからの地域医療を支えるために、主体的に行動できる薬剤師の輩出を目指しています。

従来の医療薬学のみならず、栄養、福祉、看護・介護、セルフメディケーションなどの幅広い専門知識と国際感覚を有し、あらゆるライフステージにある人々の健康に興味・関心を抱き、人々から信頼される、地域に根ざした薬剤師を養成します。



ハーブ園プロジェクト 2013

口頭発表と展示発表、両方にチャレンジしました！展示部門では見事、優秀賞を獲得！日米のハーブの利用について比較研究を行いました



九十九里地域医療夏期セミナー
学生スタッフが、地域医療における地域資源の有効活用や協働・連携の重要性について発表しました

生体リズム研究会
嗅覚と視覚が睡眠に及ぼす影響について研究発表しました



BRIGHT MELODY

「癒し」の音を奏でながら、TEA TIMEを提供しました

IPE(福祉論)

看護学部・福祉総合学部との専門職連携教育である福祉論からも、代表グループによる学習成果の発表が行われました

食育ゼミ

JEFユナイテッド市原・千葉のアカデミー選手への食支援について発表しました

Short Visit for English Training in Malaysia



瀬本 麻美(写真左)
船橋東高校出身(千葉県)

新村 糧(写真中央)
長野西高校出身(長野県)

中村 颯(写真右)
袖ヶ浦高校出身(千葉県)

英会話が、どこまでできるのかを試したくて参加しました。コミュニケーションはとれるものの、伝えたいことの半分も伝えられずにもどかしい14日間でした。語彙の強化を中心に、これからも英語学習を続けたいと思います。(瀬本)

マレーシアに行ったことで、海外の文化や価値観、英語に触れる事ができ、もっと色々な経験をしたいと思うきっかけになりました。参加して本当に良かったです。(新村)

「日本語という狭い枠に囚われたくない。」今まで避け続けてきた英語と向き合うことにしました。マレーシアの大学生はとても積極的で、今まで受動的にしか勉強してこなかった私にはよい刺激になりました。この経験を良い分岐点にしていきたいと思っています。(中村)

第2回「千葉のみらいをはぐむ会」

開催日：平成25年10月5-6日

主催：千葉県薬剤師連盟 みらいフォーラム実行委員会



若手指導者の人材育成を図り、地域で活動できる若手薬剤師の組織化の推進を考えております。第2回の会では、「将来、指導者となりうる若手薬剤師の育成」を目指し、『過去を探り、薬剤師の未来を語る』をテーマに行われました。本学からは、3年生の吉村美菜さんと大学院生の澤田康裕さんが参加しました。

3年 吉村美菜 (茨城県 水戸第三高等学校)

本会は学生でも参加できると伺って、迷わず参加しました。限られた学生生活で、「現場」で活躍される薬剤師の先生方と少しでも触れ合える機会は貴重だと思います。「座学」で学んだ知識を、将来「活かす」ものにできるよう、今から色々な経験を重ねていきたいと思っています！



2014年度
入学生 募集

大学院 薬学研究科 医療薬学専攻 博士課程

<http://jiu.ac.jp/pharmacy/graduate/index.html>

薬学部 医療薬学科 (6年制)

<http://jiu.ac.jp/pharmacy/>

城西国際大学 入試・広報センター

TEL: 0475-55-8855 E-mail: admis@jiu.ac.jp